



青山クワリエ

2007.3.8

発行:青山学院女子短期大学 〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111
http://www.luce.aoyama.ac.jp/
AOYAMA GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

No 140

CONTENTS

Front-Page Message
巻頭言「歴史を創る主体として」清水 康幸 1

Topics
卒業特集「卒業するいま」 2・3
卒業特集「卒業生へ贈る言葉」 4・5

Campus Report
2006年度特別奨学金奨学生・退任の先生 6
クワリエ歌壇「教え子たちの短歌」・スピーチコンテストほか 7

Bulletin Board
同窓会の案内・卒業後の案内ほか 8

卒業特集号

巻頭言

歴史を創る主体として

一般教育科目主任 清水 康幸



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。
みなさんは青山学院女子短期大学を卒業するにあたり、さまざまな感慨をお持ちのことでしょう。お世話になった先生方、友達、サークルの仲間……こうしたたくさんの人々との出会いは、あなたたちの人生にとってかけがえのない宝物になっていることでしょう。もしかしたら、青短は幾重にも“保護”された楽園だったのかも知れません。

でも、これからは決して楽観はできません。なにしろ、私たち教員の世代にとって「空気」のようになじんできた「教育基本法」が改変され、いつの間にか防衛庁が「防衛省」になり、戦後レジームの背骨ともいべき「日本国憲法」の改正すら政治日程にのぼりつつある時代なのです。何が起こるかわかりません。バブルで浮かされた日々はついこの間のような気がするのに、今や「格差社会」とか「勝ち組／負け組」といった言葉が肯定的ニュアンスで語られ、働けど働けど最低生活しか営めない「ワーキング・プア」が社会問題になっているほどです。これが、あなたたちが直面する社会の現実です。

どうしてこんなことになってしまったのでしょうか。

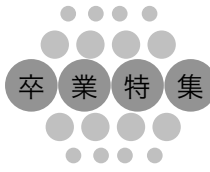


私たち「大人」世代の一つ一つの選択の結果です。私は1人の社会人として、また大学教員として、その責任を痛感し、そして自問しています。青短の教育は、そうした現実無力だったのかどうか……と。

けれど今、あなたたちは、そんな私の思いには頓着なく巣立っていきます。それでいいのですが、願わくば、「自立した社会人」として、ふがいない大人たちを乗り越える「新しい世代」として、雄々しく巣立って欲しいと願っているのです。

何かの折に、青短で学んだこと、体験したことを思い出してください。あの時、あの先生が熱を込めて語っていたことは何だったのか、涙する友達の横顔から感じた不思議な感動は何だったのか……。きっと、それらは壁にぶつかったあなたを励ましてくれることでしょう。そして授業で学んだことを、部分的でもいいですから思い出してください。実はその中に、目の前の現実を読み解くヒントが含まれているかも知れませんよ。

人間にとって「学び」とは、自己のキャリアアップのためにだけ意味があるわけではありません。ユネスコの文書に「学習権宣言」(1985)というものがあります。学習権とは、「問い続け、深く考える権利であり／想像し、創造する権利であり／自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり／あらゆる教育の手だてを得る権利であり／個人的・集団的の力を発達させる権利である。」と書かれています。どれも重要なフレーズですが、とりわけ、「自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利」という言葉に注目してください。あなたたちの「学び」は、あなた自身がより良く生きることと同時に、社会や世界の「歴史」を創ることに深く関わっています。青短での学びはその一歩にすぎません。こうした不透明な時代だからこそ、どうか学び続けてください。そして、よりよい世界を創るために共に歩いていきましょう。



卒業するいま



● 国文学科で学んだこと 国文2年 畔上 真由

短大生活は短かったけれど、とても充実した2年間だったと思います。学校では授業を通して多くの先生方との出会いから、新しい知識を得ると共に、物事を様々な角度から考える姿勢を学ぶことができました。特に卒業論文では源氏物語を扱い、多くの文献を読む中で自分なりの見解を持つことの大切さを知りました。また私の短大生活の2年間も寮生活の2年間でもありました。シオン寮は厳しいという側面もありますが、出身地や学科、学年を問わず多くの良い友達に恵まれ、様々な寮の仕事を通して、皆で協力して一つのことをやり遂げることの大切さ学びました。4月からは、公務員試験に合格しましたので、東京都の職員になる予定です。本学で学んだことを糧に、社会人として社会に貢献していきたいと思っています。



● 児童教育学科で学んだこと 児童教育2年 渡邊 七美

2年間の学生生活で、私は何も分かっていなかった、というくらい世界が広く豊かだということを知りました。同時に、自分の小ささを強く感じました。そのように感じたのは、様々な世界を見せてくださった先生、児童文化という授業で文化の豊かさを教えてくださった素敵な大人達に出会ったからです。これからどのように生きていくか戸惑い、卒業する今に至ります。そして、ふと横を見ると同じように悩み、戸惑う友人たちがいました。型にはまらずに、もっと自由に生きたいと願うことを共有できた同志とこれからもつながっていきたいです。卒業後は自分の夢に向かうのみです。自分の好奇心と野望を信じて、はばたいていこうと思います。



● 英文学科で学んだこと 英文2年 坂本 渚

本学で過ごす中で特に感じたことは、積極的に学ぶ姿勢が必要である、ということだ。勉強に限ったことではない。短い時を自分が有意義に過ごすためにも、宗教活動や講座など様々なことに飛び込んで関わってみる。そうやって、多くの人と出会うことで刺激を受け、多くのことを知ることで、私は自分の考え方や視野が大きく広がった。実り多き充実した学生生活が終わる今、本学の卒業生となることを嬉しく思う。いくつもの体験をさせてもらったことに感謝している。この表しきれない2年間の思い出と学びを編入先の大学での新たな生活に活かしたい。そして、卒業後のそれぞれの歩みが守られるようにと強く思う。



● 教養学科で学んだこと 科学文化史演習ゼミ生

この2年間はあっという間でした。でも2年間を振り返るといろいろなことがありました。学校に慣れるか不安だった入学当初。たいへんだった就職活動、遠い先のように思えた卒業論文。でも一つ一つ、これらが終わり、卒業論文も無事、提出することができました。ゼミは毎週あり、同じメンバーに会えることは楽しみでした。苦しいときはみんなに励まされ、楽しいことがあればみんなに聞いてもらえ、自分でも成長しつつ、ゼミでの発表を重ねていった気がします。先生から別の視点でアドバイスを受けたことも、自分を冷静にみる機会となりました。こうした時間を持てたことは本当に幸せでした。ここで培った力もと、これから前に進みたいと思います。みんなありがとう！



● 家政学科で学んだこと 家政2年 篠崎 円香

これまでの青短での2年間は長いようで短く、私の人生においても有意義な時間となりました。高校時代から学ぶことに楽しさを覚えていた私にとって、様々な分野を幅広く学べるという事がすごく魅力的で新鮮でした。興味を持った科目は端から履修していきました。そうして数多くの分野の知識を取得する中で、日常で見ている何気ない風景や、ものに対する価値観や視点など、私の生活の中で少しずつ変化してゆくのを感じました。それと同時に将来、本当にやりたいことを見つける事もできました。私がこれまで充実した短大生活を送る事ができたのは、いつもそばにいてくれた素敵な友人たち、温かく見守ってくださった先生方、そして、青山学院女子短期大学という伝統ある立派な本校の存在があったからです。今後、社会にでた後も、本校の卒業生であるという事に堂々と胸を張り、自信をもって日々の生活を送っていこうと思います。



● 芸術学科で学んだこと 芸術2年 牛山 裕美

青山学院女子短期大学の芸術学科に入ること、これは私の3年前の目標でした。実際に入学すると芸術の話ができる友達もでき、想像以上に充実した毎日を過ごすことができました。専攻したデザインでは自分で提案した課題を先生と議論し、試行錯誤しながら積極的に取り組みました。完成すると、今まで感じたことのない達成感を得ることができ、制作の過程で心を込めてより良い作品を創り上げていくという行為の重要性も実感しました。また芸術の知識だけでなく、主体的に行動することも学びました。そのため就職活動も希望を持ってできました。長いようで短い2年間でしたが、貴重な経験が出来たことに感謝したいと思います。



Our Memories



本学を卒業・修了するみなさんは、学生時代をどのように過ごし、
 巣立っていかようとしているのでしょうか。
 クーリエでは、12名の学生に、本学で学んだこと、
 卒業するいまの思いを書いてもらいました。



● 専攻科で学んだこと 芸術専攻 大野 華世

芸術専攻の学生はたったの6人。そのため授業は常にアットホームで温かく、心地よい雰囲気と自由な空間がありました。実際には、芸術の基礎的な技術を学ぶだけでなく、芸術人間学や哲学・美学・美術史など、この学科の知識も習得できたことは私の誇りです。修了課題として織を専攻。オリジナルのタピストリーを仕上げるためにどんな気分の時も、作品と向き合い、対話を重ね制作を進めました。学生生活の中では織にむかって過ごした時間が一番長かったと思います。出来る限りの時間を使って、沢山の愛情を注ぎ込み、完成した作品はまるで自分から生まれた生命のような気持ちになりました。創るという世界は決して簡単ではありません。本科と専攻科での経験によって得た芸術と人間のつながりの大切さは、これから独立して社会に出る上でも、大いに私の支えになってくれることを確信しています。



● シオン寮で学んだこと 国文2年 西澤 理恵

入寮式当日、私はこれから始まるシオン寮の生活がとても不安であり心配でした。思い出してみるとあの時は、2年間も寮生活ができるとは思っていませんでした。始めの内は慣れないことが多く、落ち込んでホームシックにかかることもありましたが、しかし時間が経つにつれて次第に寮生活が楽しいものへと変化していったのです。卒業する今、卒寮を考えるとしみじみとしたものがあり寂しい気持ちです。寮生活を通じてかけがえのない友人たちと出会い、心に残る思い出が出来ました。そんな充実した寮生活が送れたのも、両親をはじめ、寮の先生方や友人などが私を支えてくださったおかげです。感謝の気持ちで一杯です。シオン寮で出来た思い出は私にとって一生の宝物です。



● 専攻科で学んだこと 児童教育専攻 宮脇 さき子

卒業を控えた今、専攻科での1年間を振り返り、きっとこの1年は今後の私の人生の支えとなってくれるだろう、と感じています。わたしがこの1年で学んだことは、「学ぶことのおもしろさ」です。世界は広く豊かでまだまだ私の知らないこと、私をワクワク、ドキドキ、させてくれることがたくさんある、ということ、その一方で自分自身がこの広い世界の中で小さな存在である、ということを知りました。素敵な先生方の生き方や考え方に触れることで人間として生きることの魅力を感じることができ、わずかですが自分を成長させることができたのではないかと、思います。このような出会いに心から感謝をしています。四月から社会人としての生活が始まりますが、謙虚な姿勢で日々を楽しむユーモアを忘れずに、様々なことを学び続けていきたいと、思います。



● 教職課程で学んだこと 国文2年 伊藤 かおり

私は教職の授業で何度泣かされたかわかりません。良き先生方に恵まれ、学生の心を揺さぶる授業ばかりでした。これ程に恵まれた環境の中で日々学ぶことが出来たことは、私の短大生活の大きな柱となっています。介護体験ではそれまでの人生観を180度変えてしまうような出会いと発見がありました。そこで経験から「子どもたちの行動には全て理由がある」という認識を持って教育実習に臨むことができ、〈目に見えないものを見る〉ことで生徒たちの暖かさや柔らかさに気づくことができました。また、模擬授業や互いに意見交換する中で、共に学んだ仲間たちから学ぶことも多々ありました。こうした刺激を受けながら、この大学で享受した全てのことに、今、心から感謝しています。



● 専攻科で学んだこと 英文専攻 柏原 由佳

私達はどんな事でも出来ます。私は3年間、青短でやりたい事をやってきました。専攻科は、貴方が知らない世界を沢山見せてくれます。見てそこに入ってください。辛い事もあるかもしれない。でも20代は頑張るしかないんです。20代で頑張ればきっと素晴らしい30代を迎えられます。先生がおっしゃった言葉です。私の夢はいい女になる事です。外見とか地位とかいうのではなく、自信と経験と知恵を持った大人になる事です。だから私は今、頑張ります。

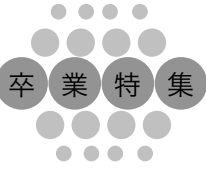


本人イラスト

● 司書課程で学んだこと 英文2年 橋元 玲

司書という専門的な日本において大事な職であり、図書館における重要な知識や人と本の関わりを司書課程を通して学ぶことができたこの2年間に、私はとても感謝している。2年間という短期間での勉強は、自分の専門科目と取らなければならない単位も含め、時間割のぎっしり詰まった濃厚な時間だった。課程を取ることで普通はない土曜・夏期授業もあり、課題は盛りだくさんで当初どれから手をつけようか迷ったが、友人や先生方の支えにより乗り越えることができた。また図書館実習も経験した。利用者でなく、職員の立場を体験し知識を得る事によって、司書へ一層興味を抱いた。2週間休み無しの実習は少々疲労を感じたが、それを感じさせなかった図書館職員の方々の仕事は私にとって思い出深いものになった。同じ志の友人と共に歩んだ2年間は、濃密な授業と同様とても充実した時間だった。皆と共に取り組むと、苦しい授業が疎通により楽しくなってしまうのが不思議だ。司書課程を取り、この道が私の辿り着く職かもしれないと感じた。





卒業生へ贈る言葉

必要とされているわたし



学長
前之園 幸一郎

ローマのサン・ピエトロ広場の書店で、過日の出張の折に教皇ベネデット16世のポケット版名言集『霊的思想』を記念に求めた。その中の「わたしたち一人ひとは、神の計らいによって生まれたのです。わたしたち一人ひとは、神から望まれ、愛され、必要とされています」という言葉が目にとまりました。現ローマ教皇のこのメッセージはわれわれ一人ひとりの存在が、ジェズベットの望まれ愛されて木片の操り人形から本物の人間の子どもにまで成長するピノッキオのように、神の周到なご計画によるものであることを納得させてくれる。本学でのキリスト教信仰にもとづく教育を背景に巣立って行かれる卒業生の皆さんが、自分自身に対して時折、神から「自分は何について必要とされているのだろうか」との問いかけをぜひ試みられることをお祈りします。

がんばって働こう！



国文学科教授
藤本 勝義

社会人になるみんな、まず1年間は耐えて働こう。一回りすると勝手がわかり、だいぶ楽になります。その後は、働きながらキャリア・アップを考えたり、趣味やスポーツの教室などに通い、今まで、経済的な事情などでできなかったことをやり、交友関係や人間の幅を広げよう。これらは、長く働けば働くほど、いろいろ可能になりますね。過去の卒業生で、20年以上同じ会社で働いている人を何人も知っています。6,7年なら、ざらにいます。皆、苦労はしながらも、心豊かな日々を送っているようです。どこへ行っても苦労も楽しみもあります。苦楽ともに人間を成長させますね。大人の世界に入ったら、自己を、内面的に高めていくことを考えよう！

はなむけの言葉



英文学科専任講師
荒木 純子

ご卒業・修了おめでとうございます！
ちょうど2年前、3年前の同じような春の陽射しの中、みなさんは期待を胸に入学されました。あつという間の学生生活でどんなことが印象に残っているのでしょうか。良い友を得たこと、真剣に語り合ったこと、一生懸命学んだこと、あるいは苦労したこともかも知れません。それらはすべて新しい生活の糧となるはずです。社会に出て戸惑うこともきっとあるでしょう。でも大丈夫です。在学中に養った考える力、積んだ経験をもとにどうぞ落ち着いて歩いていらしてください。そして、どういう形であっても、ぜひこれからも学び続けてください。知は力です。充実した人生を切り拓いていかれますよう、心から応援しています。



副学長
谷本 信也

大昔と異なり、私達の生活は、多くを遠く離れた地域にも依っています。これは単に物だけではなく、金銭や制度、文化さらには人の生き方に関してもいえることです。この中で生きてゆくには、その今を理解し対処するだけではなく、過去のあり方からも学び未来をも配慮しながらという態度が是非とも必要です。卒業後実社会に向かう皆さんは、毎日の出来事に対処するのに精一杯で時間も無く、深く多くを考えることが少なくなるかもしれません。しかし、今を支えるだけではなく未来を作り出してゆくのは我々でもあるのです。

ぜひ、進んで幅広く物事を捉え、他の言う事にも耳を傾け、孤独な一人にならず多くの世界を知り、これからの長い道のりを歩んでくださるよう、期待しています。

繋がる



児童教育学科教授
久保 制一

先日、電車でシートに座ってうつらうつらしていたら膝になにか触れるものがあるので目をあけてみると、バギーの赤ちゃんがちょうどこのところにあるぼくの膝をその小さな手でこねこねしていた。くすぐったいけど心地よい感触だった。この瞬間、小さないのちに繋がっているような感慨にとらわれた。考えてみれば、大学というところも、若い世代の人たちとこんな風に、ぼくの場合は美術やアートを通して繋がっているのだなあと思った。実際ぼくらもそうして上の世代からたくさんのコトを繋がって学んできた。ご卒業おめでとう。この春からの新しい時間と空間の中で、いい出会いとすてきな繋がりの輪がゆっくり、たくさんできていくことを祈念します。

空の形は？



教養学科教授
八耳 俊文

私の気分転換法は空はどのような形をしているか考えることです。実際には空に形などないのですが、私にはおおむね大きな丸いテントのように見えます。細部はどうなっているかとさらに空を見続けていると、いろいろな想像が働きます。不思議と、空の下にいる多くの人のことを考えたりします。知っている人、知らない人、まだ行ったことのない土地でこの現在働いている人、空想を広げると、この空を見上げていた過去の自分、未来の自分も、この下にいるような気がします。私はこのとき力が湧いてきます。空を漠然と見るのではなく、その形はと意識することがポイントです。気分転換の方法の一つとして卒業するみなさんに贈りたいです。





本学を卒業・修了するみなさんへ。 メッセージを寄せていただきました。



あなたの豊かなタピストリーを



芸術学科助教授
阿久津 光子

私の専門とする「織・タピストリー」は、よく人生に喩えられます。経糸は時間軸であり、一目一目織り込まれた緯糸により、その色彩で折々の心や思いを表現し、重ねた時間がそこに現れるからです。自らの人生を彩り、織り上げるのは自分自身であるのは自明のことです。皆さんの2年間はどのような一枚の絵、タピストリーとなったでしょうか。芸術学科で制作と理論を学びながら、無から有を生み出すことの難しさと喜びを感じたことでしょうか。2年間という短い期間でしたが、手と頭、身体と心を総動員して、その力を卒業制作や卒業論文に集約できたことで、大きな自信となったと思います。混迷の時代だからこそ、社会、生活の中で、芸術という豊かな精神の種子を、焦らず、ゆっくりと育てていってください。

あなたは絶対表現している



兼任講師
岩松 了(演劇論)

今日あなたの身に起こったことを話してごらん下さい。どんな些細なことであれ、それはあなただけの経験です。表現とはそういうものです。あなたのまわりにあるのは世界。あなたがいつもみているもの、それが世界です。それを感じたあなたの表情は、世界へのあなたのリアクションであり、表現を必要とされる時、いかなる表現をしたところで、それを司っているのは、そのあなたの表情。その表情はあなただけのものであり、それが世界があなたを求める必然でもあるのです。そうやってあなたは世界とコミュニケーションをしはじめるのです。一歩踏み出す。それは当然あなただけの一歩。



オルガニスト・兼任講師
佐々木 順子

皆さんは今、将来への期待と不安が入り混じった気持ちでいらっしゃるのではないのでしょうか。私自身卒業時には、殆ど泳げないのにいきなり大海に放り出されてしまったような心細さを感じたことが思い出されます。どうぞこれからも同じように自分を信じ、目の前の課題に取り組みながら一日一日を積み重ねてください。自分の弱さをきちんと認めることができた時に、一歩前に進めるのではないかと思います。短大で得たこと、学んだことが皆さんの中で豊かに熟し、行く道を明るく照らしてくれますように。ご卒業・修了おめでとうございます。

若く美しくあれ



写真部コーチ
佐藤 新一

スタートラインに立つ者よ。恰好悪いからといって消極的にならないで。真の恰好良さはそれを乗り越えて得るもの。不安な気持ちに負けないで。人生に不安はついて回るもの。冷静に相対すれば大丈夫、大丈夫。一生懸命働いて、よく遊んで、時々立ち止まって熟考する。これが気持ちの良いリズム。感動する心を失うことなく、感謝の気持ちを忘れることなく、素直に表して。それこそ若く、美しくあり続ける秘訣。

明るい将来のために



学生課学生生活係
久米 聡

ご卒業おめでとうございます。皆さんが短大で過ごした時間は、日本人女性の平均寿命から算出すればわずか1/40程度ですが、その間に学問の知識や友情などの「かけがえのないもの」をたくさん得られたことと思います。卒業後もそれらを大切にしてください。昨今「環境問題」「格差社会」等の言葉をよく耳にしますが、皆さんが明るい将来を築くために「何かをしてもらう」から「何かをする」へシフトチェンジして社会で活躍することを期待します。

最後に2006年の流行語を交えて、皆さんへメッセージ。「シンジラレナイ事ばかりの世の中ですが、イナバウアーのように優雅かつ青短生らしい品格を持って、格差社会を乗り越えて!!!」



家政学科副手
川上 敦子

青短での学生生活は如何でしたか？副手として関わる機会は僅かでしたが、ゼミや実習で、皆さんが時折見せる真剣な眼差し、ひたむきさ、時に頑固に取り組む姿に接することは、私にとっても刺激的な多い有意義な時間でした。この先、それぞれの生活が始まりますが、夢や目標を見失わず、やりたい事にどんどん挑戦する気概をもってください。そして、素敵な女性になれるよう頑張ってください。いつかきっと、ここで過ごした2年間が意味のある時間だったと思える日がきます。卒業おめでとう！



Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report

キャンパスレポート

Campus Report Campus Report Campus Report Campus Report

2006 年度 青山学院女子短期大学特別奨学金奨学生

青山学院女子短期大学特別奨学金は、学生を奨励顕彰するための奨学金制度です。奨学生は応募また推薦の中から選考され、今年度は右記の6名及び1団体が選ばれました。今回は、特別奨学団体に選ばれた JICA 筑波夏期インターンシップ・プログラムについてご紹介します。

JICA 筑波夏期インターンシップ・プログラムに参加して

2006 年夏、本学から 12 名の学生が国際協力機構 (JICA) 筑波国際センターの主催するインターンシップ・プログラムに参加した。このプログラムは、JICA 筑波で平成 12 年より大学と連携して実施されている、農業開発や国際協力を体験的に学ぶ実践授業である。全部で 15 コースに分かれ、それぞれ 5 日間に及ぶ日程で JICA の人的・物的資源をフルに活かしながら、農業開発と国際協力に関する実践的なトレーニングが行われる。学生たちに人気のコースは「JICA と国際協力入門」で、ここでは他大学や大学院生たちとのグループ討論や、途上国からの研修生へのインタビュー等を通して、自ら主体的に国際協力に関する様々な学習を行う。

本企画の担当として、最も気になっていたのは、本学の学生が他大学の学生や大学院生と議論を交えた学習活動を行う事が出来るか、通常授業とは異なる実践レベルのプログラムについてゆくことが出来るか等々、であったが、担当者の心配はやがて杞憂に終わる。参加学生からは非常に充実したプログラムであったという声が多く寄せられ、また JICA 筑波側からは、通常大学 3、4 年生が対象となっているプログラムであったにもかかわらず、12 名の学生たちが積極的に議論に参加し、プログラムを盛り上げていたとの報告を受けた。本学学生の潜在的能力の高さに驚かされた次第である。

ある日の研修につき、A・I さんの感想より。
「研修員 (JICA に研修に来ていた途上国の人) の方の出身地の現

英文学科 2 年 福井 千紘 英文学科 2 年 駒崎 尚子
家政学科 1 年 石澤 萌依子 教養学科 2 年 千葉 なつみ
教養学科 2 年 高良 亜土 教養学科 2 年 若林 絵美
平成 18 年度 JICA 筑波夏期インターンシップ・プログラム
参加者 11 名

状を聞いて問題点を見つけた後に、具体的な解決策を (グループで) 考えるのが難しかった。実際問題としてニュースなどで聞いた事はあるけれど、解決策は簡単に有効なものが思いつかないので、時間がかかった。でも、フィードバックした後、研修員の方にとっても良かったと評価してもらえた事がとても嬉しかった。交流会でも今まで話したことのない国の人たちと話せて貴重な体験ができた。途上国出身でも 6ヶ国語を話せるという人もいて刺激を受けた。」

来年度 (2007) からは、このプログラムを他大学と同様に単位化する。共通教育科目・主題科目の国際協力 I & II がそれに当たる。国際協力 I (前期・2 単位) ではインターンシップ・プログラムにきちんと参加するための国際協力に関わる基礎知識を身につけてもらい、国際協力 II (夏期集中・2 単位) でプログラムを履修してもらうこととなる。本年度に続き、来年度はより多くの学生たちが国際協力入門の扉をたたいて欲しいと願っている。学生諸君の積極的な参加を待っている。
(学生部委員 関谷雄一)



JICA 筑波 国際センターにて
写真提供 専攻科教養専攻 横田秀美さん

退任の先生

退任の挨拶

一般教育科目 大野 愛子

大野愛子先生、お疲れさまでした
一般教育科目主任 清水 康幸

この 3 月定年を迎え、35 年にわたる教員生活に終止符を打つことになりました。長い間大変お世話になり有り難うございました。本学ですごしました 15 年間は、ひたすら「よりよい授業を」「よりよい教育環境を」と懸命に走り続けてきたような気がいたします。ただ、全力投球してきたつもりではありますが、振り返ってみますと、自分がなげなかつたこともあれこれ思い起こされ、否応なしに自分の力の限界を意識させられている昨今です。

最後の最後まで授業準備には多大な時間を費やしてしまいました。けれども、手放して満足できる授業がどれだけできたでしょうか。それでも、単に、「興味深かった」「視野が広がった」などではなく、「自分を許せるようになった」「心にゆとりができた」「生きる希望が湧いてきた」など、想像もしていなかったような声も寄せられ、驚くと同時に安堵もしています。願わくば、授業で感じとっていただいた私のメッセージを心の中で暖め、何かの折に少しでも生かしていただければ嬉しく思います。

学生の皆さんの期待に応え、且つ成長に寄与する学習環境を用意しようと、先生方とはよく話し合いました。同一の教育目標を実現するため真剣に語り合える関係の中で過ごせたことはとても幸せでした。どんどん改善された面もあれば、なかなか変化しない面もありました。本学ほど教育熱心な教員の集まっている大学は少ないのではないのでしょうか。先生方の熱意が稔り、本学が、全学生・全教職員が心から誇れる学園としてよりいっそう発展しますよう願っております。



大野愛子先生は今年度をもって定年をお迎えになります。1992 年以来、本学の教職課程の教育心理学担当の教授として教鞭を執られ、あわせてそのご専門を生かし、学生相談室の実質的な責任者として活躍されてきました。また児童教育学科での卒論ゼミや主題科目の「心理学」などを長く担当されてきました。こうして 15 年間にわたり、いつもにこにここと優しい雰囲気をかもしながら、講義や学生たちの相談にあたってこられました。お世話になった学生は数知れないことでしょう。また大野先生は、2002 年から 4 年間、一般教育科目の主任として大学運営の重責を担ってこられ、学院のセクハラ委員会の委員としても活躍されました。本学および学院への貢献は大きなものでありました。

大野先生の長年にわたるご尽力に感謝すると共に、今後のご活躍とご健康を心からお祈りしております。

クーリエ歌壇

教え子たちの短歌——今年度の作品から

国文学科教授 高野 公彦 選

ポポポポと僕は時計の窓あけた今日も怒ったお母さんが見えた

国文一年 松本 唯

この「僕」は、鳩時計の鳩である。ポポポポと歌いながら顔を出すと、今日もお母さんが子供を叱っているのが見えた。メルヘン風でユーモラスな作。

コンビニのレジ打ちながら三日後の服の参考として客を見る

国文一年 椎名 菜都紀

バイトをしていたのだらう。レジを打ちながら、さりげなく客の服装を観察する。自分のお洒落の参考にするのだ。三日後に待つのはデート？

右まきのまあるい殻を背にのせたでんでん虫はニワトリの工サ

国文一年 新地 玲央

でんでん虫は丸い殻を背に乗せて、いかにも可愛い。しかしニワトリからみれば単なる工サだ。ようしやなく食う。動物界の残酷さをえがいた一首。

ゴーゴーときこえて夜空見上げれば星にまぎれて飛行機ひかる

国文一年 田中 亜美

音はするけど飛行機はどこだらう？ 夜空を見ていると、ひしめく星のあいたを横切る光があった。「星にまぎれて」という詞句が的確でいい。

マニキュアの色を選んでバッグ持ち鏡の前に立つデート前

英文一年 横山 綾夏

デートする時、男も身だしなみを気にするが、女性はずっと真剣。マニキュアよし、バッグよしと鏡の前でチェックして、いざ彼の待つ場所へ。

山手^{ヤマテ}に追い越されつつ中年のサラリーマンと目が合いにけり

国文二年 金澤 有希子
電車が並走している時、向こうの人と目が合うことがある。やがて相手は遠ざかり、決して二度と会うことはない。出会いとも言えぬ微かな出会い。

国文二年 椎名 恵理
十六の春に別れた父が来て「少し痩せたか」とぼつりつぶやく

別れたあと、久しぶりに会ったら、父は「少し痩せたか」と言う。ああ自分のことを思ってくれていたのだ、という熱い思いが胸をよぎる。

国文二年 寺岡 千広
十月の湿生花園にかがやきぬあなたの笑顔と赤いクコの実

湿生花園で「あなた（好きな人）」とひととき過ごす。クコの実が赤く熟れている。かたわらにあるあなたの笑顔。楽しさあふれる歌である。

国文専攻 中野 亜理紗
寂しさを埋める私のお守りは待ち受け画面の愛犬二匹

作者は四国から出てきて下宿生活をしている。寂しい時には、待ち受け画面の二匹の愛犬を見て、心を慰める。四国の家で飼っている犬である。

* * * * *

国文二年 高野 公彦
ある世にひびきおり失いし子を悼む唄「しゃぼん玉の」の唄

大正十一年のこと、野口雨情（作詞家）は二歳の娘を失い、その悲しみをこめて「しゃぼん玉」の童謡を書いた。学校では今、いじめが跡を絶たない。中には自殺する子もいる。そんな世の中だから、「しゃぼん玉とんだ、屋根までとんだ、屋根までとんで、こわれて消えた」という詞がいっそ悲しくひびく。

* * * * *

青山短歌大賞（最優秀賞）

夏まつり露店に並ぶわた菓子^{（最優秀賞）}のどれかに雲が紛れていたり

国文二年 村田 一美

夏祭りの露店に並ぶ綿菓子。その中に雲がまぎれ込んでいます。どの菓子が雲なのか分からない。どれも白くふうわりとしている。作者の想像力がえがき出した、ファンタスティックな楽しい作品。

英文学科スピーチコンテスト



佐々木美央さん

2006年11月24日に英文学科主催青山学院女子短期大学「英語スピーチコンテスト」が開催されました。様々なテーマについて1年生の代表が英語力そして内容を競い、佐々木美央さん（1年C組）が「How to Regain Happiness」と題したスピーチで見事優勝に輝きました。佐々木さんは2007年12月に開催の東京都私立短期大学協会主催「第33回学生英語スピーチコンテスト」に本学代表として参加します。また、2006年11月25日には東京都私立短期大学協会主催「第32回学生英語スピーチコンテスト」が私学会館にて開催されました。本学の代表として英文学科2年駒崎尚子さんが出場し、見事3位に入賞いたしました。優れた英語力のみならず、歴史問題について自身の意見を展開し、その真摯な声は聞く人の心に響くすばらしい発表でした。（英文学科 湯本 久美子）

姉妹校コーネルカレッジが本学を訪問

2006年10月14日から22日まで、姉妹校Cornell CollegeのGayle Luck教授と5名の学生が本学に来訪いたしました。学生は35の個別クラスに参加し、アメリカの諸局面についてプレゼンテーションと議論を行いました。また、日本舞踊・茶道・華道・和紙芸術などの日本芸術プログラムにも参加し、そして寮生や多くの学生との交流の機会を持つことができました。Luck教授は「One Woman's Journey」と題して講演を行い、その勇気と挑戦に満ちた自身の歩みについてお話をくださいました。本学とCornell Collegeの絆をさらに深める来訪となりました。（国際交流委員会）



華道部学生と交流

同窓会のご案内 — 本学を卒業する皆さんへ —

ご卒業、修了おめでとうございます。短大の2年あるいは3年の学生生活は、卒業を迎える時に振り返ればあっという間の短い期間だったかもしれません。しかし素晴らしい先生方や講義、祈りを捧げたチャペルがあるキャンパスはずっと心に残ることでしょう。同窓会は皆様と同じ学生生活を送った卒業生の会です。皆様は卒業をすると青山学院校友会の会員となり、同時に短期大学同窓会の会員になります。今まで校友会や同窓会を知らなかった方が大半ではないかと思えます。同窓会は50,000名を超える会員で構成され、会員のデータ管理を厳密に行っています。主な活動は年2回の会報発行、総会の開催、青山祭参加バザー、クリスマス礼拝、夏の軽井沢のつどい、さつき会展（同窓生の作品展）等があります。



バザー

ボランティア活動として、はり絵グループ、グループ手しごと、朗読グループがあり、文化スポーツ活動には聖書と讃美歌の会、ハンドベルクワイア、たんぼぼ会（歩く会）があります。学科会活動（国文・英文・家政・児童・教養・芸術）もそれぞれ学科主催の講座を短大及び先生

方のご協力を得て、出身学科を越えてどの講座にも参加することができ、多くの卒業生が生涯教育の一環として、母校に集って楽しく学んでいます。また同窓会には本部を中心に7支部があり、年1回の支部総会には母校より先生をお迎えして講演や学校の現状を伺ったり、それぞれの地域で年代を超えた独自の交流活動を行っています。是非会報をご覧になって参加してください。これらすべての活動は会費（年会費2,000円）により運営されていますが、皆様からは卒業時に入会金と5年分の会費を納入していただいています。



同窓会会長 諸山 啓子
(1968年教養学科卒)

校友会は青山学院で学んだ全ての方が会員です。短大・大学の学生は準会員と位置付け交流を図っています。年1回全会員に届く『チャイムズ』（青山学院・校友会共同発行）は校友の活躍や学院の情報を得ることができます。

卒業を迎えた皆様はこれからの新たな出発点に立ち希望に燃えていることと思います。多くの素敵な先輩が応援していることを覚えていてください。

卒業後の案内（問い合わせ先）

問合せ内容	担当部署	電話番号	ホームページアドレス
証明書・再入学・科目等履修生・編入・留学	短大教務課	03-3409-7045	http://www.luce.aoyama.ac.jp/
専攻科・短期大学士入試に関すること	短大入試広報事務室	03-3409-7145	
就職相談	短大学生課就職係	03-3409-7097	http://www.agulin.aoyama.ac.jp/
教会案内	短大宗教活動センター	03-3409-7120	
卒業後の住所変更	短大同窓会	03-3499-3149	
図書館利用	短大図書館	03-3409-7103	http://www.jasso.go.jp/
中軽井沢寮の利用（夏期のみ）	短大庶務課	03-3409-7086	
青山学院万代奨学金返還方法・口座振替	青山学院本部財務部本部財務グループ	03-3409-6547	
青山学院万代奨学金返還猶予・住所変更等	青山学院本部総務部庶務課	03-3409-6463	
日本学生支援機構奨学金に関すること	日本学生支援機構奨学事業相談センター	0570-03-7240	

*ホームページで取り扱っていない内容については担当部署へお問い合わせください

卒業式・卒業礼拝の案内

- ◎2006年度卒業礼拝（青学講堂）
3月22日（木）
13時30分（13時20分集合）
※礼拝後クラス会にて成績通知書を配布します。
- ◎2006年度卒業式・修了式（青学講堂）
3月23日（金）
10時（9時開場、9時40分集合）
※ご父母の皆様には別途ご案内申し上げます。
※1年生が参列する必要はありません。

新2年生・専攻科生への
新年度案内

- ◎2007年度2年生書類配付・履修指導
4月2日（月）9時30分
- ◎2007年度新入生・専攻科生
学生証・書類配布
4月3日（火）10時～11時30分
- ◎2007年度入学式（青学講堂）
4月3日（火）13時（新入生・専攻科生）

編集後記

早春の冷たくも明るい陽光のなか、緑の多い青山キャンパスでもとくに草花の美しい短大の敷地を歩いていますと、香草類の乾いた茂みが足もとにひかえています。冬のあいだ、その地上部分は枯れて見えますが、毎年春にはまた薫り高い芽を吹く、宿根草の強さと柔らかな姿。そこに巣立ってゆく若い女性たちの将来を重ねて、わたしたちは、卒業後にも根が残るような学びの種を蒔く、その誓いの気持ちをあらたにいたします。さまざまな形の旅立ちのときにあたり、多くの方々から真心のこもった言葉の数々をお寄せいただき、心よりお礼申し上げます。（山田 美穂子）

編集委員

- | | | |
|-------|-------|------|
| 奥井正司 | 奥村健一 | 志賀智江 |
| 田口恵子 | 寺村眞佐子 | 山井准子 |
| 山田美穂子 | | |